C:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmfC:\Users\zenrin\AppData\Local\Microsoft\Windows\Temporary Internet Files\Content.IE5\OYLOII2Q\MC900228485[1].wmf園長だより　令和２年度１月号（20210122）

園長　平澤　正則

制服のズボンとスカートで

　保護者アンケートの中に「制服のズボンとスカートの使用頻度が低く，必要なのでしょうか。」という趣旨の発言が記されていました。ずっと気になっていたので先生方の意見を聴きたいと思い，話し合いをお願いしていました。この話は実はすごく大事な話なのですが先生方の情報交換の中での優先順位としては高くはなく，勤務時間超過が常態化している中では厄介な話なのですが，やっと先日この話題にたどり着くことができました。私のいないところで伸び伸びと語り合ってほしかったので後から報告を受けました。結果は，「毎朝制服を着て登園し，登園後私服に着替え，降園前に制服に着替えて帰る。」とのことでした。理由は「制服はきちんとした生活の象徴といえる。着替える練習にもなる。」とのことでした。私は半ば愕然としました。本当にそうなのか？着替えの練習になるというのは確かに一理あるけれど，ひよこ組やはな組の子たちをはじめとする園児たちにとっては苦痛とならないのか。先生たちにとって大きな仕事が一つ増えるのではないか。そもそも，制服のズボンとスカートはそれほど必要なのか。それほど必要で大切だと先生方は全員本当に思っているのか。そう答えれば私が喜ぶと誤解しているのではないか。忖度しているのではないか。次から次へと疑念が沸き上がってきました。こう言うと身内の恥をさらけ出すようなものになるのですが，それも含めて私はこの話にきちんと向き合いたいと思います。

　30～40年前，中学校の車通勤の若い教員の多くはジャージで出勤し，部活等で朝から汗をかいてもいいようにしていましたが，ある時そんな服装での通勤は生徒たちの模範となるべき教員にはふさわしくないということで背広やネクタイを強要されるようになりました。年配の方たちには我慢がならなかったのでしょう。人は自分の経験を価値の基本にしますから。そう言われれば仕方なく従ったものですが，効率の悪さを我慢することで毎日憂鬱でした。当時は短ランだの長ランだの男も女も制服に反発する子が後から後から大勢出てきてそれとの戦いも熾烈でした。

　50年前のことも思い出しました。茨城高等学校の私たち3年生は制服の自由化を叫び文化祭に乗じ仮装して水戸市内を行進し，ついには制服の自由化を勝ち取り，茨城県内では2番目の制服自由化学校となり，その時は自分たちの力と信じ，大いに満足したものでした。あの時も制服の意義についてはずいぶん考えたものです。高校生だって親の経済力は大体わかりますから私服化するのは大変だと多くが思っていて，それなら制服を廃止するのではなく両方認める「自由化」がいいとなったのでした。当時の先生たちが立派だったのだと気づいたのはずっと後のことです。思えば私には制服との戦いがまだ続いているのです。

　しかし，どれほど考えてもこれといった結論が導き出せないままでいます。その最大の理由は，制服をどうとらえるかという理念が自分の頭の中に確立されないからだと思います。「きちんとした生活・態度の象徴」とか「清潔感のある，感じられる服装」とか，そういう概念から逃れられず制服を断ち切ることができないでいます。だから年に数えるほどしか着ることがないようなズボン・スカートを断ち切れないのです。そういう思いでいたので若い先生の意見を聴こうとしたのですが，若い人も同じように思っていたのでしょう。価値観が変わるには時間がかかるということなのだと思います。善隣幼稚園内だけで完結する話ではなく，街を歩けば人目に触れて，世間の評価にもつながる話です。保護者の皆さんはどう感じているでしょうか。しかし，このことは保護者の多数決で決めることではなく，園の教育理念が問われているのだと私は思います。ですから，園長はもとより，先生方にも自分の頭で考え自分の結論を見出し続ける努力を続けることを私は要求し続けようと思います。本日のところは，この話はもう少し今のままとしますが、今まで以上に情報収集をし，より多くの人が納得できる結論を得られるようさらに努力しなければならないと思います。